

図1 各品種における発病穂率の比較（2017年播種、A市）

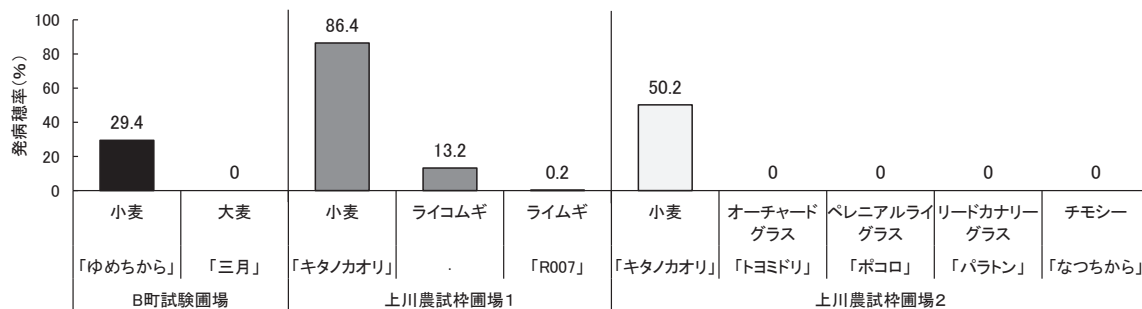


図2 大麦、ライコムギ、ライムギおよびイネ科牧草に対する感染性（2019年播種 上川農試）

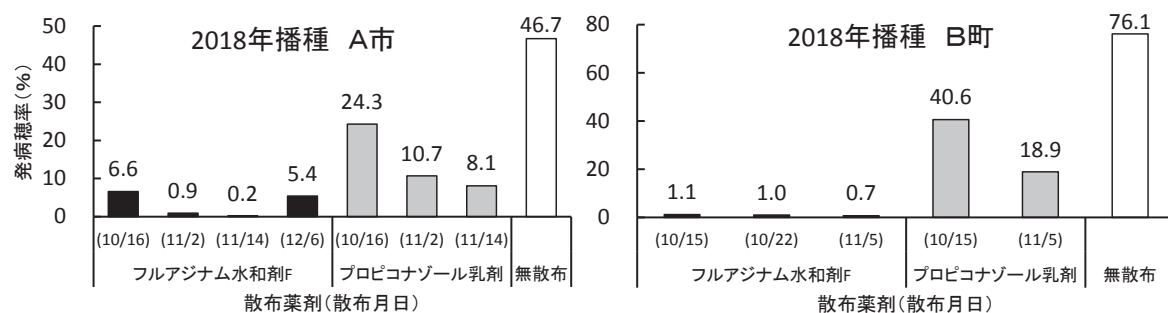


図3 薬剤の散布時期別の防除効果

注1) 紅色雪腐病防除のため本病に効果のないイミノクタジン酢酸塩液剤を種子塗抹した種子を用いた

注2) 根雪始：A市12月7日、B町11月28日

表1 耕種の対策と薬剤防除を組み合わせた効果（2019年播種、A市）

品種	播種時期・播種深度	播種月日	平均播種深度 (最小-最大)	薬剤防除 ¹⁾	発病穂率 ²⁾ (%)	防除価
きたほなみ	適期・適深	9月18日	2.6cm (1.4-3.6)	防除	0	100
	遅まき・浅まき	10月3日	0.9cm (0.3-2.4)	防除	1.1	95
	遅まき・浅まき	10月3日	0.9cm (0.3-1.7)	無防除	21.9	
ゆめちから	適期・適深	9月18日	3.1cm (2.5-4.0)	防除	0.2	99.6
	遅まき・浅まき	10月3日	0.8cm (0.1-1.9)	防除	4.9	90.8
	遅まき・浅まき	10月3日	0.8cm (0.3-1.5)	無防除	53.0	

注1) 薬剤防除はイプロナゾール・イミノクタジン酢酸塩水和剤F（0.5%）を種子塗抹し、11月1日にフルアジナム水和剤F（1000倍）を散布した

注2) 1区300穂×3反復を調査

詳しい内容については、次にお問い合わせください。
道総研中央農業試験場 予察診断グループ
電話（0123）89-2001 E-mail：central-agri@hro.or.jp